

## 18. 国立情報学研究所の戦略～大学図書館と共に考え共に創る未来の学術情報基盤～

国立情報学研究所学術基盤推進部次長

尾城 孝一

### はじめに

国立情報学研究所（以下、NII）では、情報学分野の研究と教育と並行して、我が国の学術情報基盤の整備を進めている。大学等の学術機関にとって不可欠な学術コンテンツの確保と発信のための基盤整備は、その重要な柱のひとつである。本講義では、学術コンテンツ整備に関する事業の現状を、データプロバイダ、サービスプロバイダ、及び支援機関という3つの側面から概観する。また、大学図書館との連携・協力の枠組みの中で、今後取り組んでいくべき事業について論じる。

### 1. 国立情報学研究所の概要

#### 1. 1 略歴

NIIの歴史を紐解いてみると、その始まりは1976年に発足した東京大学情報図書館学研究センターに遡ることができる。このセンターは、東京大学総合図書館の中に置かれており、NIIはそもそもその始まりから大学図書館と密接な関係にあった。その後、東京大学文献情報センター、さらには学術情報センターと変遷し、2000年には研究所として生まれ変わる。そして2004年には、国立大学と足並みを揃えて法人化され、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構のなかの1研究所に位置づけられ、今日に至っている。

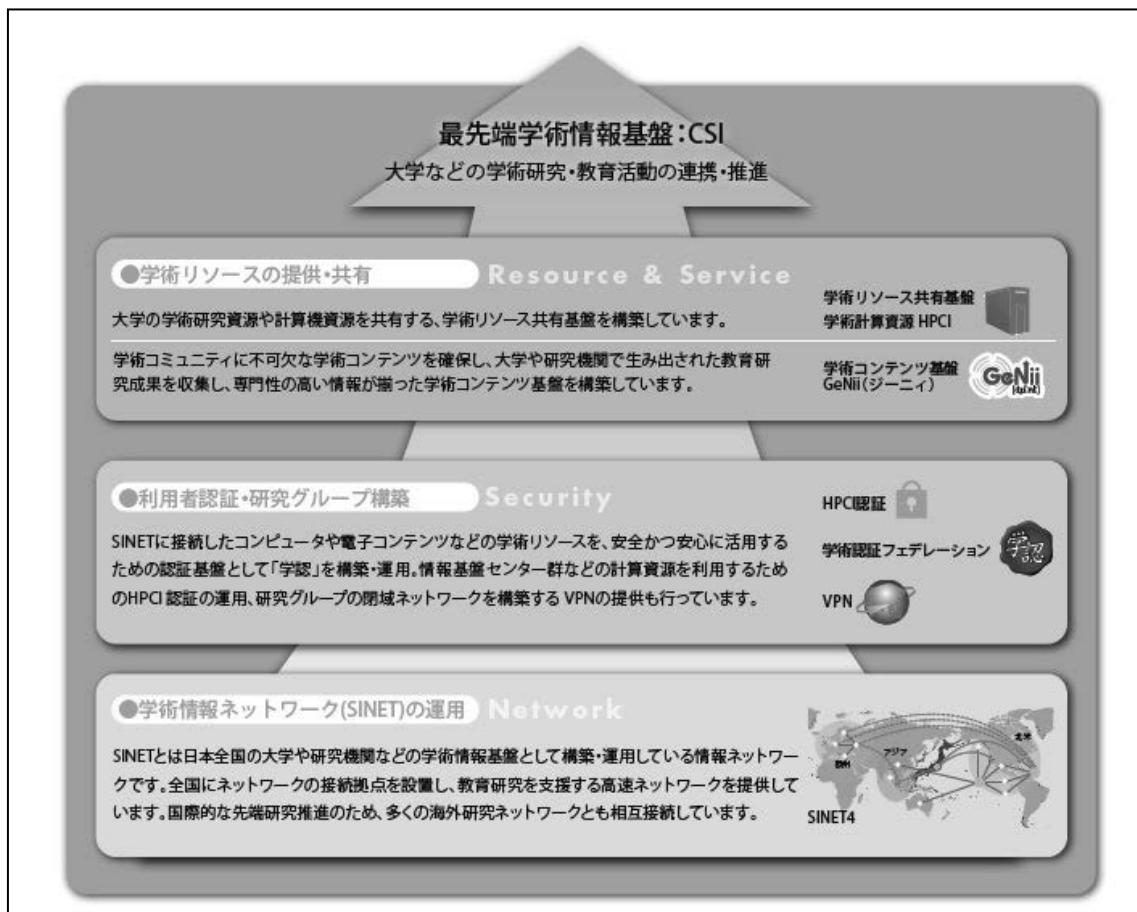
#### 1. 2 NIIの使命

NIIは2つの大きなミッションを持っている。ひとつは、情報学に関する総合的な研究拠点として、研究教育を行うというミッションであり、もうひとつは、学術情報流通のための基盤整備を行うというミッションである。この2つの使命をいわば車の両輪の如く有機的に連携させて推進していることがNIIの大きな特徴となっている。

#### 1. 3 最先端学術情報基盤(CSI: Cyber Science Infrastructure)

NIIは、基盤整備の使命を果たすために、CSIと呼ばれているインフラの整備を進めている。CSIとは、「我が国の大学等の研究機関が持っているコンピュータ等の設備、基盤的なソフトウェア、コンテンツ、人材、研究グループなどを超高速のネットワーク上で共有するための情報基盤」である（図1）。具体的には、次の2つの事業の推進を通じて、CSIの構築を進めている。

- ・情報基盤センターなどとの連携による、学術情報ネットワーク、認証基盤の整備
- ・大学図書館などとの連携による、学術研究・教育に不可欠な学術コンテンツ基盤の整備



(図 1) 最先端学術情報基盤

## 2. 学術コンテンツ事業の全体像

NII のコンテンツ事業を簡潔に表現すると、「大学の教育や研究にとって不可欠な学術情報を確保し、それに付加価値を付けて発信・提供していくための基盤整備」ということになる。

この基盤整備を進めるために、NII は 3 つの役割を担っている。ひとつは、データプロバイダとしての役割であり、NII は大学図書館や学会等と連携して学術コンテンツを確保し、作成するという活動を行っている。2 つ目は、サービスプロバイダとしての役割であり、データプロバイダとして確保したコンテンツに付加価値を付けて提供している。最後に支援機関として、研修やセミナー開催などの事業を通じて、大学図書館や学会の活動を支えるという機能を果たしている。

## 3. データプロバイダとしての NII

NII はデータプロバイダとして、目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL)、学術機関リポジトリ構築連携支援事業、電子アーカイブなどの事業を行っている。

### 3. 1 NACSIS-CAT/ILL

NACSIS-CAT は、1985 年に運用を開始して以来、順調に成長しており、2007 年 6 月には図書と雑誌の所蔵を合わせた件数が 1 億件を突破した。一方、NACSIS-ILL の件数は、電子ジャーナルの普及に伴い、2005 年をピークとして毎年減少傾向にある。NACSIS-CAT に蓄積された目録データは、これまで Webcat を通じて提供されてきたが、この後継サービスとして 2011 年 11 月から CiNii Books が公開されている。また、2004 年から目録データの遡及入力事業も行ってきたが、一定の成果を挙げたことから、2012 年度で終了した。

### 3. 2 機関リポジトリ構築連携支援事業

続いて、NII は大学図書館と連携して、機関リポジトリを通じて、大学で生み出されたさまざまな知的生産物を収集し、保存し、発信するための活動を継続してきた。具体的には、2005 年度から、大学図書館等と委託契約を結び、機関リポジトリの構築や普及を図るための財政的な支援を行っている。その他、機関リポジトリのコンテンツ用のメタデータの標準を定める、国内のリポジトリのコンテンツを横断的に検索する JAIRO と呼ばれるポータルを構築する、WEKO という機関リポジトリ用のソフトウェアを開発するなど、リポジトリの発展を下支えするためのさまざまな取り組みを行ってきた。

個々の大学図書館の努力および NII のこうした支援活動によって、日本の機関リポジトリの設置数はこの 10 年間で急速に増加し、現在、300 以上の機関がリポジトリを持つに至っている。また、本文を持つコンテンツの数も日本全体で 110 万件を超えていている。

しかしながら、課題も残されている。たとえば、国公私立大学別のリポジトリ設置率を見ると、国立は 9 割を超える機関が設置しているが、公立は 3 割強、私立は 2 割強程度の設置率にとどまっている。

こうした状況を改善するために、NII は 2012 年度から、自力でリポジトリを構築し、運用することが困難な大学に向けて、共用リポジトリ（通称、JAIRO Cloud）というサービスを開始した。NII がハードウェアを準備し、ソフトウェアの管理も行う。利用機関は、NII が用意したクラウド環境を利用して、コンテンツを登録し、公開する。画面のデザインやインターフェイスなどは、大学独自のものを提供することができる。NII は、JAIRO Cloud の利用を促進することにより、2015 年度末までに、博士後期課程を持つ全ての大学が機関リポジトリを備えることを目標としている。

以上の状況を踏まえ、NII は今後の機関リポジトリの支援活動について、以下のような基本方針を定めている。

- ①公募による委託事業は 2012 年度で終了する。
- ②機関リポジトリの推進を下支えする基盤的な取組みは、大学図書館と NII の連携により継続する。

③JAIRO Cloud（共用リポジトリ）の推進を重点的に実施する。

すなわち、これまでの委託事業は打ち切るが、今後も大学図書館との連携・協力の枠組みの中で、我が国の機関リポジトリの推進に貢献していくことになる。

### 3. 3 電子アーカイブ

データプロバイダとしてのNIIの取組みとして忘れてはならないのが、電子アーカイブに関連する事業である。NIIでは、「ライトアーカイブ」と「ダークアーカイブ」という性格を異にする2つアーカイブの構築を進めている。

ライトアーカイブは「いつでも明りがついている倉庫」であり、常時アクセスができるサーバのことである。NIIは、ライトアーカイブとしてNII-REOというサーバを用意して、ここに電子ジャーナルのバックファイルや人文社会系の電子コレクションを蓄積して、契約機関に対してアクセスを提供している。

一方、ダークアーカイブは「普段は明りが消えているが、必要な時に明りが灯る倉庫」であり、通常はアクセスできないが、出版社の倒産や自然災害によって、オリジナルのサーバでのアクセスが停止した時に、このアーカイブに明りが灯ってアクセスできるようになる。つまり、電子ジャーナルなどの長期保存とアクセスを保証するためのアーカイブと位置付けられる。ダークアーカイブに関する取り組みとして、NIIはCLOCKSSという世界的な電子ジャーナルの長期保存のプロジェクトに参画して、アジア地域でのノード（サーバ）の維持機関としての役割を果たしている。CLOCKSSはスタンフォード大学で始まった分散型のアーカイブであり、参加図書館と参加出版社の会費によって運営されている。日本からは約80の図書館が参加しているが、今後さらなる普及が期待されている。

### 4. サービスプロバイダとしてのNII

このようにデータプロバイダとして確保したコンテンツに付加価値を付けて発信するサービスとして、NIIではGeNiiと呼ばれている学術コンテンツポータルの整備を進めている。このポータルを通じて、論文情報、図書・雑誌の情報、科研費の研究課題や成果報告書のデータ、専門的なデータベース、それから機関リポジトリのコンテンツに一元的にアクセスすることができる。

#### 4. 1 CiNii

GeNiiを構成するコンポーネントのひとつとしてCiNiiがある。これは日本を代表する論文情報サービスであり、NII自らが作成したデータに加えて、機関リポジトリの論文系のデータ、科学技術振興機構や国会図書館が作成した論文データも取り込んで、重複するデータを同定し、統合して、検索サービスを提供している。現在、合わせて、1,500万件以上の論文情報が検索できるようになっている。

また、これまでCiNiiの検索対象は論文に限られていたが、2011年11月から、CiNii Booksという新しいサービスがCiNiiファミリーに加わり、NACSIS-CATに登録されている図書と雑誌の情報も検索できるようになった。CiNii Booksは、基本的にWebcatの後継のサービスであり、Webcatで実現されている機能はすべて継承している。その他、新たな機能として、FA番号（図書館ID）や、図書館の所在地域などの検索、検索結果から図書館のOPACへのリンク、各種APIの提供などを挙げることができる。さらに、最近のアップデートの結果、いくつかの新しい機能

が加わった。たとえば、CiNii の認証を経て利用すると、所蔵館リストの一番上に自分の図書館の所蔵が表示され、OpenURL の設定リンクもできるようになった。また、Google Books の書影の表示や文献管理ツールのひとつである Mendeley へのデータのエクスポートも可能になった。今後も、順次新しい機能を追加し、図書館員やエンドユーザからの要望にできるだけ応えていきたい。

#### 4. 2 その他のサービス

さらに、国内の機関リポジトリに蓄積された学術情報を横断的に検索する JAIRO や科学研究費助成事業の採択課題、各種報告書を提供する KAKEN といったサービスも GeNii の重要な構成要素となっている。

### 5. 支援機関としての NII

支援機関としての NII が実施している事業として、研修に関する事業と国際学術情報流通基盤整備事業（通称、SPARC Japan）がある。

#### 5. 1 研修事業

NII では、CAT/ILL の講習会、学術情報ウェブサービス、情報リテラシー、機関リポジトリなどに関する専門研修などを年間を通して実施している。最近特に力をいれている研修として、実務研修がある。これは NII に 3 カ月から半年程度滞在してもらい、OJT（On the Job Training、職場内訓練）という形式で、実際に NII の業務を経験しながら、研修生が設定したテーマについて研修を積んでもらうというシステムである。

#### 5. 2 国際学術情報流通基盤整備事業

また、2003 年から、国際学術情報流通基盤整備事業（通称、SPARC Japan）を継続して行っている。これは国内の学会が刊行している英文のジャーナルの国際的な発信力を強化することを目的として始まった事業であるが、現在は、SPARC Japan セミナーというイベントを定期的に開催して、学術出版や学術コミュニケーションに関連する最新動向などについて、図書館員や研究者が共に考え、議論する場を提供している。

### 6. 大学図書館との新たな連携・協力の枠組み

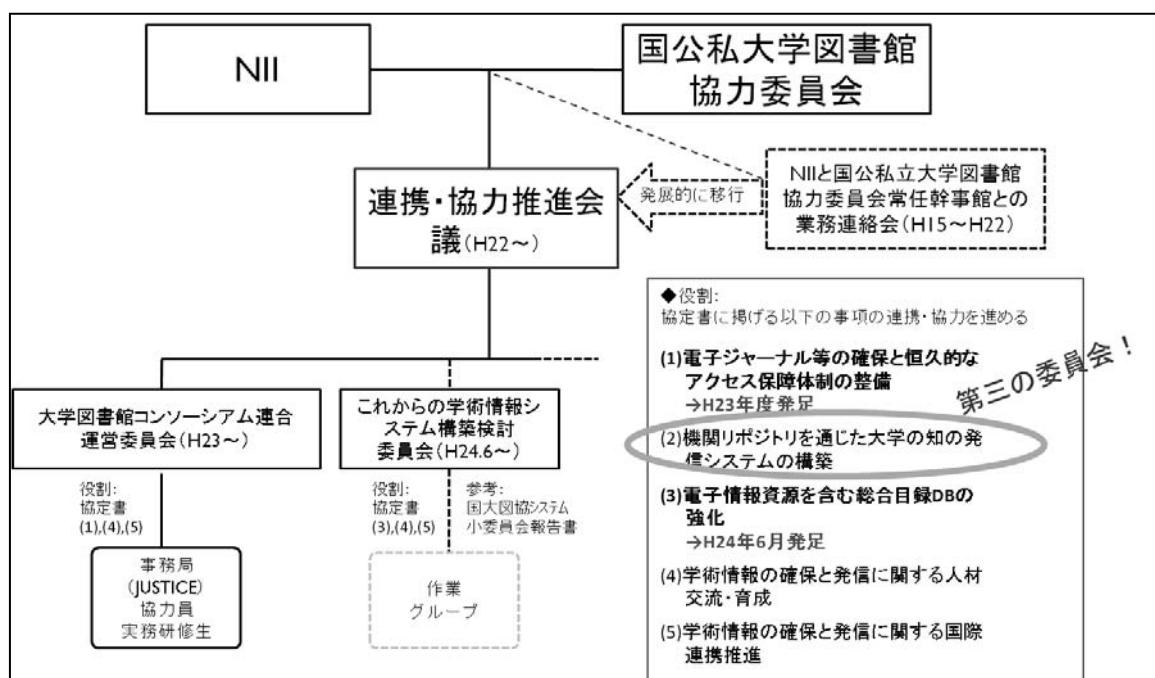
#### 6. 1 大学図書館との協定締結

NII の今後の事業展開を考える上で、なによりも重要なポイントは、大学図書館との連携の強化である。これを実体化するために、2010 年 10 月に、国公私立大学図書館協力委員会との間に連携・協力の推進に関する協定を締結した。もちろん、それまでも NII と大学図書館は密に連携しながら、各種の事業に取り組んできたが、ここであらためて、電子環境下において、我が国の

大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図ることを目的とした協定を締結するに至った。この協定書のなかで、連携・協力の枠組みの中で具体的に取り組むべき課題として、次の5つの事項が挙げられている。

- ①バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証体制の整備
- ②機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
- ③電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
- ④人材の交流と育成
- ⑤国際連携の推進

こうした課題に取り組むための組織的な枠組みとして、NIIと国公私協力委員会の間に、連携・協力推進会議という委員会を設置した（図2）。



（図2）大学図書館とNIIの連携の枠組み

## 6. 2 大学図書館コンソーシアム連合

この枠組みの中で、2011年4月から大学図書館コンソーシアム連合（通称、JUSTICE）が活動を開始した。NIIはJUSTICEの活動を支援するために、学術基盤推進部の下に図書館連携・協力室を設置し、それをJUSTICEの事務局として提供している。それ以外にも、NIIとJUSTICEはさまざまな業務を通じて連携を図っている。たとえば、NII-REOの中に蓄積する電子ジャーナルのバックファイルや人社系の電子コレクションの整備を共同で進めている。また、ダークアーカイブであるCLOCKSSについても、日本からの参加館を増やすべく連携してプロモーション活動を行っている。さらに実務研修を活用して、電子リソースの契約や管理を担う人材の育成にも努めている。

## 7. 電子リソースの管理とアクセス支援

### 7. 1 これまでの取組み

大学図書館およびNIIにとって、電子ジャーナルや電子ブックの管理を効率的に行い、それをしてこれらの電子リソースへのアクセスを支援することは、喫緊の課題のひとつである。

電子リソースの管理や提供に関するNIIのこれまでの取り組みを振り返ってみると、まず、平成19年度から20年度にかけて、2年間にわたり、ERMS（電子リソース管理システム）の実証実験を行った。それを受けて、NIIの図書館連携作業部会の下のワーキンググループでも21年度から23年度に、検討を継続してきた。さらに、アンケート調査やヒアリング調査なども行ってきた。そのアンケート調査の結果をまとめてみると、以下のような事実が判明した。

- ・ERMSの導入は全く進んでいない。
- ・電子リソースは、図書館システムやExcelなどを使って管理しているが、極めて非効率的である。
- ・利用条件やライセンスの管理は、図書館システムやExcel、さらに、紙のアグリーメントや電子ファイルをただ保管しているだけという図書館も半数近くある。

一方、提供面についても、以下のような結果となっている。

- ・A-Zリストの導入は半数の図書館にとどまっている。
- ・リンクリゾルバを使っている図書館は、半数以下。
- ・ウェブスケール・ディスカバリサービスを導入している図書館にいたっては、6%にすぎない。

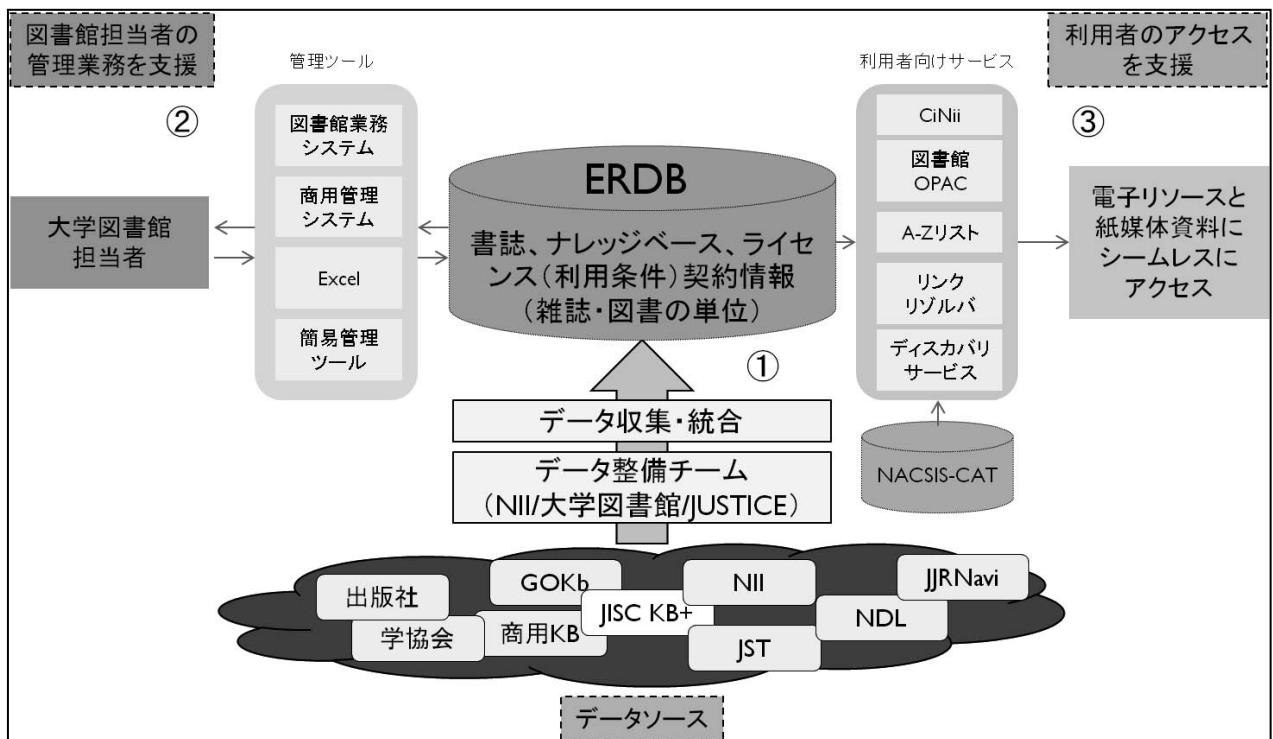
さらに、以下のような意見が寄せられている。

- ・電子リソースの管理は手間がかかる。
- ・ERMS等の高額な商用システムの導入は困難。
- ・たとえ導入できたとしても、データの移行や管理が大変。
- ・管理データを他館と共有できない。
- ・他館の契約状況がわからない。
- ・紙と電子のシームレスな検索が必須。

このように、ほとんどの図書館では電子リソースの管理が適切に行われておらず、その結果、利用者を電子リソースに的確に導くことができていないという現状が明らかになった。

### 7. 2 ERDBプロジェクト

こうした状況を改善するために、NIIはこれまでの検討の蓄積を踏まえ、さらに大学図書館からの要望も聞きながら、2012年5月に、電子リソースの管理と提供サービスの基盤となるデータベース、いわゆるERDBを図書館と共同で構築し、そのデータを共有できるような仕組みを作るためのプロジェクトを開始した。



(図3) ERDBを中心とした電子リソースの管理と提供

ERDBを中心とした電子リソースの管理と提供の想定シナリオは以下のとおりである(図3)。

#### ①ERDBの構築とデータ共有

- ・国内外の電子リソース(電子ジャーナル、電子ブック等)の書誌・アクセス可能範囲・パッケージ・ライセンス(利用条件)・利用統計等のデータを集約

#### ②大学図書館の業務支援

- ・ERDBのデータを利用した効率的な契約情報管理、ライセンス管理、利用統計管理

#### ③利用者のアクセス支援

- ・図書館OPAC、A-Zリスト、リンクリゾルバ、ディスカバリ、CiNii等でデータを活用し、必要な電子リソースを迅速かつ的確に発見・アクセスすることができる環境を整備
- ・既存のNACSIS-CAT等のデータとの横断検索を提供し、紙と電子の情報をシームレスに利用できる環境を整備

プロジェクトでは現在、プロトタイプ・システムを作成し、それにテストデータを投入し、このようなシナリオが想定どおりに実現できるかについて検証を進めているところである。

おわりに

大学図書館とNIIによる真の意味での連携・協力を実現し、新しい時代に即した学術情報基盤を構築していくためには、両者の関係を定義し直す必要がある。これまでNIIの事業に大学図書館が参加する、あるいは協力するという関係が成り立っていた。これを、両者が平等な立場で、

お互いのリソースを持ち寄り、連携・協力するという関係へと変えていく必要がある。NIIはこうした新たな関係を築くために、さまざまな連携・協力の場（プラットフォーム）を提供していくと考えている。このような場で情報や課題を共有しながら、共同で事業を進め、あわせて次世代を担う人材も育てていきたい。

## 参考文献

1. 『国立情報学研究所要覧（平成 25 年度）』
2. 『学術コミュニケーションの新たな地平：学術機関リポジトリ構築連携支援事業第 1 期報告書』（平成 20 年 12 月）([http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi\\_ir\\_h17-19\\_report.pdf](http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h17-19_report.pdf))  
[アクセス：平成 25 年 6 月 6 日]
3. 『変容する学術情報流通、進展する機関リポジトリ：学術機関リポジトリ構築連携支援事業第 2 期報告書』（平成 23 年 11 月）  
([http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi\\_ir\\_h20-21\\_report.pdf](http://www.nii.ac.jp/irp/archive/report/pdf/csi_ir_h20-21_report.pdf))  
[アクセス：平成 25 年 6 月 6 日]
4. 『電子的学術情報資源を中心とする新たな基盤構築に向けた構想』（平成 24 年 3 月 国立情報学研究所 学術コンテンツ運営・連携本部 図書館連携作業部会）  
([http://www.nii.ac.jp/content/archive/pdf/content\\_report\\_h23.pdf](http://www.nii.ac.jp/content/archive/pdf/content_report_h23.pdf))  
[アクセス：平成 25 年 6 月 6 日]
5. 『電子環境下における今後の学術情報システムに向けて』（平成 23 年 11 月 国立大学図書館協会 学術情報委員会 学術情報システム検討小委員会）  
(<http://www.janul.jp/j/projects/si/gkjhoukoku201111.pdf>)  
[アクセス：平成 25 年 6 月 6 日]
6. 守屋文葉, 今村昭一, 柴田育子, 尾城孝一. 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) : 現在の活動と将来の展望. 大学図書館研究. 2011, 93, 42-51.
7. 『学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について』（平成 24 年 7 月 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会）  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1323857.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1323857.htm))  
[アクセス：平成 25 年 6 月 6 日]

**国立情報学研究所の戦略**

～大学図書館と共に考え共に創る未来の学術情報基盤～

国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長  
尾城 孝一

**国立情報学研究所の概要**

▶ 1 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

**略史**

国立情報学研究所

年月	事項
昭和51(1976)年5月	東京大学情報図書館学研究センター発足
昭和58(1983)年4月	東京大学文献情報センター設置(情報図書館学研究センターを改組)
昭和61(1986)年4月	学術情報センター(NACSIS)設置
平成12(2000)年4月	国立情報学研究所(NII)設置(学術情報センターの廃止・転換)
平成16(2004)年4月	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所設置

▶ 2 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

**(参考)学術情報センター時代**

旧東京教育大学(現筑波大学 東京キャンパス大塚地区)

学術情報センター 事業部棟

学術情報センター 管理部棟

旧東京医学校本館(現東京大学総合研究博物館小石川分館)

▶ 3 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

**(参考)国立情報学研究所**

学術総合センタービル(東京都千代田区)  
12F~22F

千葉分館(千葉市)

国際高等セミナーハウス(長野県軽井沢町)

▶ 4 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

**NII組織図(平成25年4月～)**

```

graph TD
    DG[所長  
アドバイザリーボード  
副所長  
研究開発局] --- AD[アドバイザリーボード]
    DG --- GL[グローバル・リソースオフィス]
    DG --- P[プレネスト研究所センター]
    DG --- RS[研究系]
    DG --- RSD[研究施設]
    DG --- RNB[研究開発本部]
    DG --- SBD[学術基盤情報部]
    DG --- E[経営部]

    AD --- A1[アカデミック・リサーチ・センター]
    AD --- A2[アート・クリエイティブ・リサーチ・センター]
    AD --- A3[ソーシャル・リサーチ・センター]
    AD --- A4[社会基盤技術研究系]

    GL --- G1[国際化ネットワーク・情報開発センター]
    GL --- G2[情報・知識資源センター]
    GL --- G3[情報・知識資源センター]
    GL --- G4[社会有効活用センター]
    GL --- G5[情報・知識資源センター]
    GL --- G6[情報・知識資源センター]
    GL --- G7[情報・知識資源センター]
    GL --- G8[情報・知識資源センター]

    P --- P1[情報・知識資源センター]
    P --- P2[情報・知識資源センター]
    P --- P3[情報・知識資源センター]
    P --- P4[情報・知識資源センター]

    RS --- RS1[研究系]
    RS --- RS2[研究施設]
    RS --- RS3[研究開発本部]
    RS --- RS4[学術基盤情報部]

    RSD --- RSD1[研究系]
    RSD --- RSD2[研究施設]
    RSD --- RSD3[研究開発本部]
    RSD --- RSD4[学術基盤情報部]

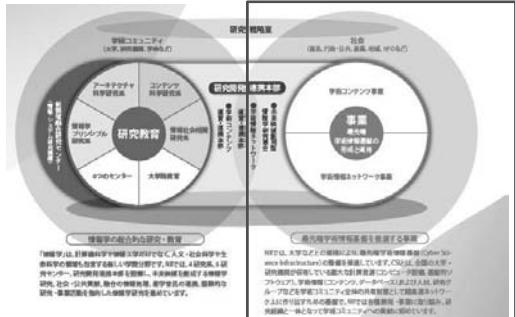
    RNB --- RNB1[研究系]
    RNB --- RNB2[研究施設]
    RNB --- RNB3[研究開発本部]
    RNB --- RNB4[学術基盤情報部]

    E --- E1[企画部]
    E --- E2[社会連携推進室]
    E --- E3[総務部]
  
```

▶ 5 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## NIIの2つのミッション

「研究と事業を車の両輪として情報学による未来価値を創成」



▶ 6

平成25年度大学図書館職員長期研修 6 2013/7/11

## ペイン・ドリブン(痛みから学ぶ)



「世界的にも、情報学の研究とITサービス・ネットワーク運用を同時にに行っている機関は稀有です。猛烈な勢いで進化する情報学において、実際にシステムを運用することを通じて様々なペインを自ら体感することは、ITの流れを感じ今後の研究開発の方向を把握する最も確かな手段であると同時に、最先端の情報サービスを大学と共に創ることに大きく貢献すると確信します。」  
(所長あいさつ 喜連川 優)

<http://www.nii.ac.jp/about/overview/director/>



▶ 7

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11

## 最先端学術情報基盤(CSI)

国立情報学研究所  
National Institute of Informatics



▶ 8

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## CSI(Cyber Science Infrastructure)とは



CSIとは、全国の大学・研究機関が個別に保有している膨大な計算資源（コンピュータ設備、基盤的ソフトウェア）、学術情報（コンテンツ、データベース）および人材、研究グループなどを学術コミュニティ全体の共有財産として、超高速ネットワーク上に創り出すための基盤

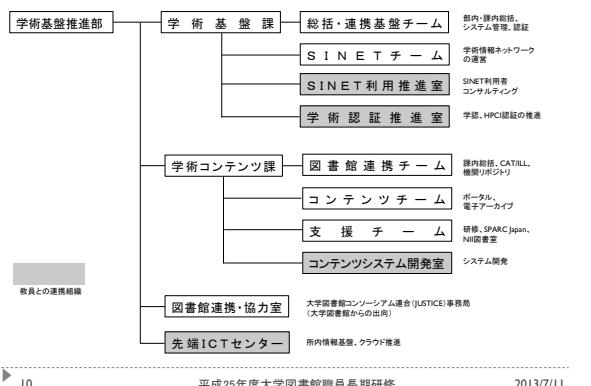
1. 情報基盤センターなどとの連携による、学術情報ネットワーク、認証基盤の整備
2. 大学図書館、学会などとの連携による、学術研究・教育に不可欠な学術コンテンツ基盤の整備

▶ 9

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11

## 学術基盤推進部組織図(平成25年4月～)



▶ 10

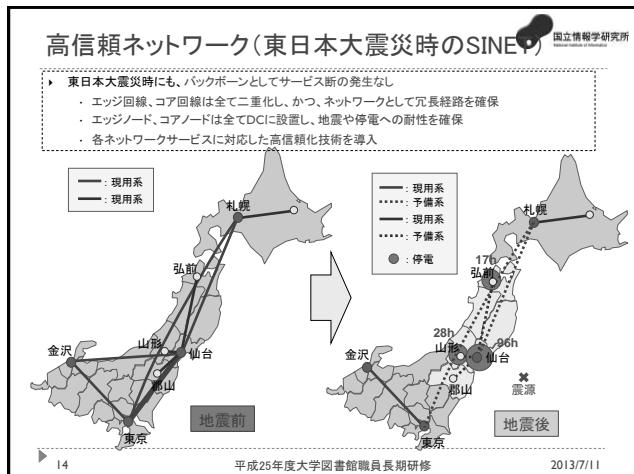
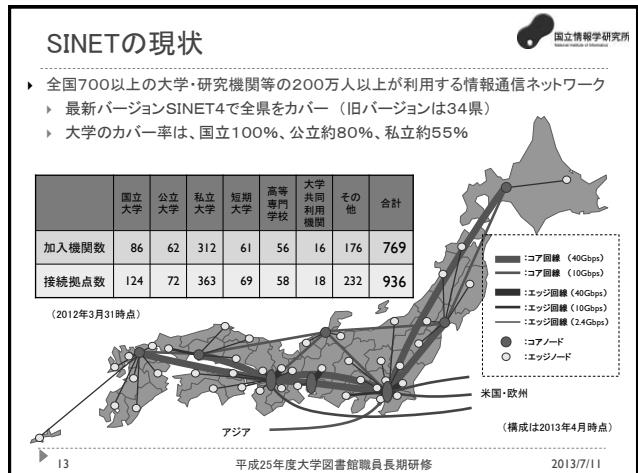
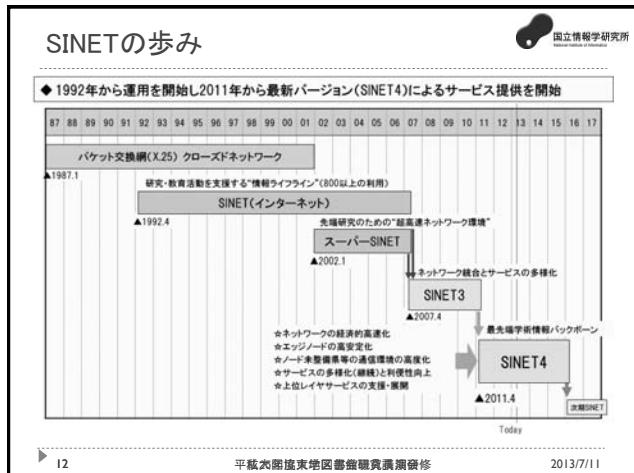
平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## 学術情報ネットワーク(SINET)事業

▶ 11

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11



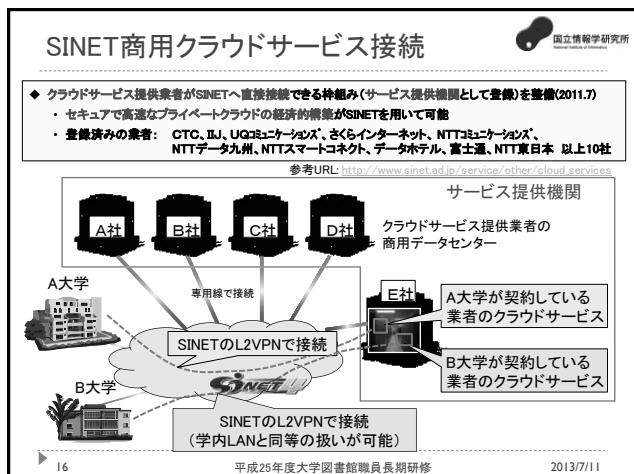
**SINETの提供サービス**

◆ 世界最先端のサービス群の提供を継続するとともに、オンデマンドサービスなどを拡張中

サービスメニュー	SINET4	備考
E/F/E/G/E(T) GE(LX) 10GE(LR)	◎	
インターネット接続 IPv6 マルチホーミング フルルート提供 マルチキャスト L3VPN	◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎	一一わる普通のインターネット native/dual stack/tunnel
L2サービス		
L3サービス		
L2サービス		
ユーザ支援サービス		

※その他のサービスも検討中

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11



- SINET関連プロジェクト**
- ◆ 学術認証フェデレーション(学認)
- Shibbolethを利用したWebアプリケーションへのシングル・サイン・オン(SSO)をセキュアに実現するための分散型認証基盤
- ◆ UPKIオーピンドメイン証明書自動発行検証プロジェクト
- 電子証明書自動発行支援システムを用いて、大学等の機関と連携し、サーバ証明書発行プロセスの学術機関最適化および自動化について検証するプロジェクト
- ◆ eduroam
- eduroamは欧州のTERENAで開発された教育・研究機関用の無線LANローミング基盤で、これにより参加大学等の間でキャンパス無線LANの相互利用を実現
- 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

 国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

# 学認とは

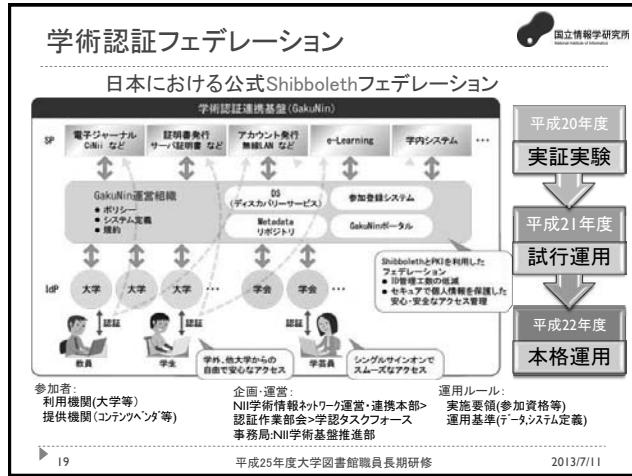
いつでもどこでも、簡単・セキュアに個人認証し、  
ウェブリソースを利用しやすくする仕組み

- 記憶するIDは1種類 (統合認証)
- 情報入力は1回だけ (SSO)
- 学内外、国内外、OK (リモートアクセス)
- Webブラウザだけ (別ソフト不要)

18

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11



**世界のフェデレーション**

**INTERNET**

**NATIONAL IDENTITY MANAGEMENT FEDERATIONS**

**In Pilot**

- Austria (ACDNer-AAI)
- Ireland
- Denmark (DAMAN, KDD)
- Roland (PNT)
- Taiwan (TSMAN)

**Multi-National Federations**

- International Grid Trust Federation (IGTF)

**Current National Federations**

Country	Federation
Australia (AMF)	BELNET (BELNET RITE Federation)
Belgium (BELNET RITE Federation)	Canada (ICAF)
China (CARGO)	Czech Republic (Zafira/cz)
Denmark (WANIF)	Finland (YHAKI)
France (CRU)	Germany (GDF-AAI)
Hungary (InfraNet)	Iceland (WAYIT)
Iceland (WAYIT)	Italy (Federico)
New Zealand (Tukin)	Japan (T-PROFederation)
Portugal (PROFI)	Singapore (Sinfonia)
Spain (CIBIC, SAUVAIR, Sveral)	Switzerland (SWITCH/SIRI)
United Kingdom (GridTrust)	The Netherlands (SURF Federatie)
United States (GridTrust Federations)	United States (GridTrust Federations)

[http://www.internet2.edu/about/international\\_federations.pdf](http://www.internet2.edu/about/international_federations.pdf)

平成25年度大学図書館職員長期研修

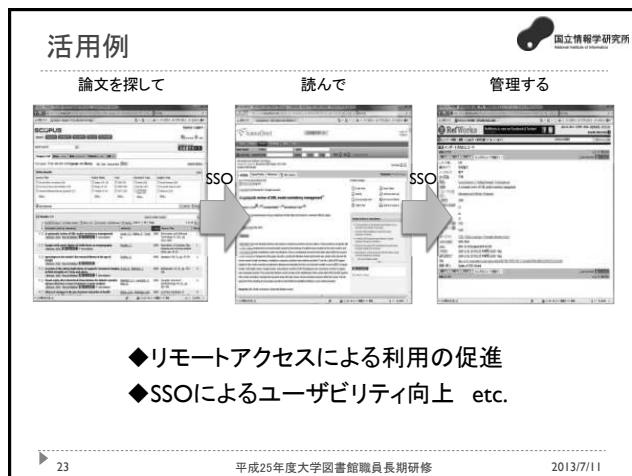
20 2013/7/11



The diagram illustrates the use cases of Single Sign-On (SSO) for library resources:

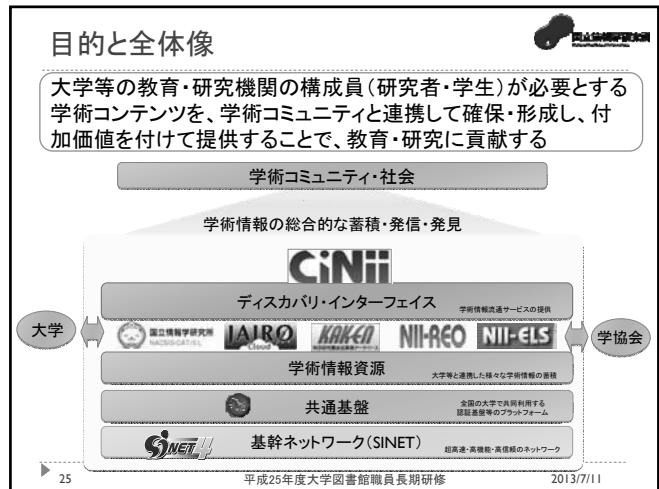
- CiNii Case:** A user sees a message "CiNiiの有料論文が見たい" (Want to see CiNii's paid articles). They click "どうぞご利用ください" (Please use). The CiNii logo is shown with a "ログイン" (Login) button. This leads to a "認証サーバへリダイレクト" (Redirect to authentication server) step, which then involves "ID、パスワード入力" (Enter ID and password) and "各大学 認証サーバ" (Authentication servers at various universities). The process ends with "個人情報 DB" (Personal information database).
- ScienceDirect Case:** A user sees a message "Science Direct の論文も見たい" (Want to see Science Direct's papers). They click "認証ですね、どうぞ" (Authentication required, please proceed). The ScienceDirect logo is shown with a "ログイン" (Login) button.
- RefWorks Case:** A user sees a message "RefWorks のリストを更新しよう" (Update RefWorks' list). They click "認証ですね、どうぞ" (Authentication required, please proceed). The RefWorks logo is shown with a "ログイン" (Login) button.

After logging in, a message indicates "以後、SSO (シングルサインオン)" (From now on, SSO (Single Sign-On)).



## 学術コンテンツ事業

24 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

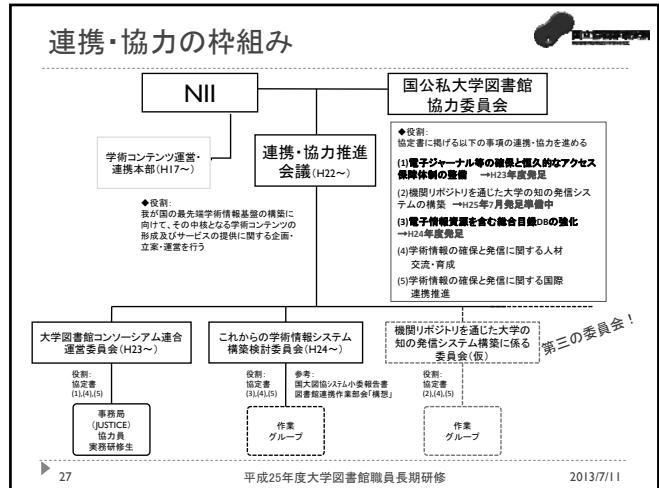


## 大学図書館との協定に基づく連携

◆「大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所と国公私立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」締結(平成22年10月13日)

- (目的)  
「我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る」
- (連携・協力の推進)
  - バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備
  - 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築
  - 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
  - 学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成
  - 学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進
  - その他本目的達成するために必要な事項
- (組織)  
NIIと国公私立大学図書館協力委員会との間に、連携・協力推進会議を設置

26 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11



## NACSIS-CAT/ILL: 目録所在情報サービス

■ NACSIS-CAT
 

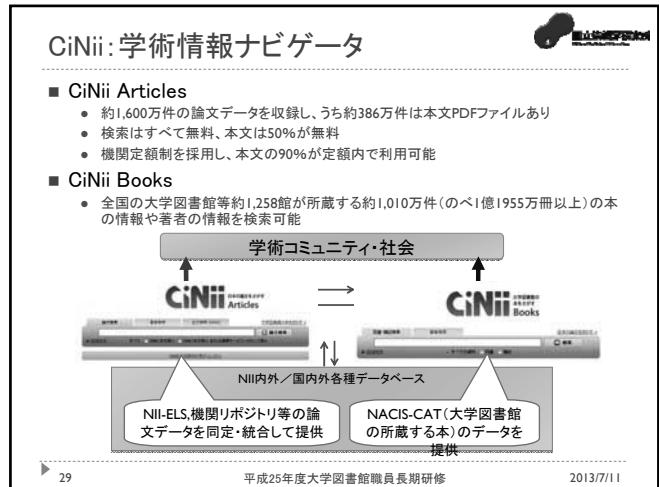
- 国内の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌情報を共同構築
- オンライン共同分担入力方式による目録システム
- 参加機関: 1,258機関
- 所蔵登録データ: 図書: 1億1,955万件(2万件増/1日) 雑誌: 463万件(平成24年度末)
- 同時接続端末(ユーザ数): 5,000台

■ NACSIS-ILL
 

- 目録システムで構築された総合目録データベースを活用した相互利用力システム
- 参加機関: ILL102機関
- 貸出: 約72万件、貸借: 95万件、海外ILL(OCLC, KERIS) (平成24年度)

紙と電子の学術情報をシームレスに利用できる環境構築が課題

28 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11



## CiNii Articlesの現況

収録件数  
■論文情報 約602万論文  
うち、本文あり(NII-ELS)  
392学会会員 1,311種、約346万論文  
821大学等 3,401種、約40万論文  
(平成25年3月末時点)

利用状況  
■月間約480万件以上の検索  
■月間約215万件以上の本文ダウンロード  
(最大月は400万件超・平成22年1月)  
(平成24年度平均値)

登録状況  
■定額制契約機関数  
866機関(海外55)  
■個人登録者数  
15,773名  
(平成24年度集計)

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## CiNii Booksの現況

CiNii Booksの利用状況  
過去のアクセス数

収録件数  
■書誌情報 約1010万件  
■所蔵情報 約1億1,955万件  
■図書館 1,258館  
(平成25年3月末時点)

利用状況  
■月間約200万件以上のアクセス

NII  
CiNii Books → NACIS-DAT → 参加図書館  
一般利用者 → 図書館システム OPAC → 参加図書館

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## KAKEN: 科学研究費助成事業データベース

■ KAKEN: 科学研究費助成事業データベース  
● 科研費補助金の採択課題・成果情報: 約70万件を一括検索  
● 報告書PDFの全文検索が可能(2012.6.)  
● 文献リストから論文検索サイト(CiNii等)にリンクあり  
● 研究者ごとの情報集約

MEXT/JSPS  
研究費管理データベース  
電子申請・登録統合システム  
→ 拡張情報、成果報告書の公開  
→ CiNii  
JAIRo  
NII  
機関リポジトリ  
R&R  
大学  
機関リポジトリ  
→ メタデータ自動収集  
→ 業務連携  
→ 拡張情報、研究者リンク  
→ R&R  
→ 大学等研究機関  
→ 拡張情報の登録  
→ 研究者  
→ 研究者  
平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## 電子コンテンツのアーカイブ

■ NII-ELS : 電子図書館事業  
■ 国内学協会誌のアーカイブ  
● 国内学協会誌掲載論文の本文情報: 約386万件  
● CiNiiの検索結果からNII-ELSの本文情報にアクセス可能  
● オープンアクセス/有償(機関別定額制、個人クレジット払い)、公開条件を設定可能  
● 全文検索(ページ版)の提供

■ NII-REO: 電子アーカイブ事業  
■ 海外電子ジャーナル、電子コレクションのライト・アーカイブ  
● 大学図書館コソーシアム連合(JUSTICE)と連携したコレクション整備  
● 海外電子ジャーナルの本文: 約370万件  
● 人社系電子コレクション: 約19万件

■ CLOCKSSへの参加  
■ 電子ジャーナルのダーク・アーカイブ  
● 電子ジャーナル者の長期保存・アクセス保証を目指した国際プロジェクト  
● NIIは世界120のノード機関の一つとしてデータを保持  
● 大学図書館コソーシアム連合(JUSTICE)から83機関が参加(2013/3/20)

NII-REO  
CLOCKSS  
平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## 学術機関リポジトリ

学術コミュニティ・社会  
一括検索機能の提供  
JAIRo  
学術機関リポジトリポータル  
日本の機関リポジトリに蓄積された学術情報を一括検索、本体へリンク  
機関リポジトリの構築・連携支援

大学等  
A大学 機関リポジトリ  
B大学 機関リポジトリ  
C大学 機関リポジトリ  
研究者  
大学等からの情報発信  
メタデータ自動収集  
機関リポジトリの構築  
機関内生産情報の収集・保存

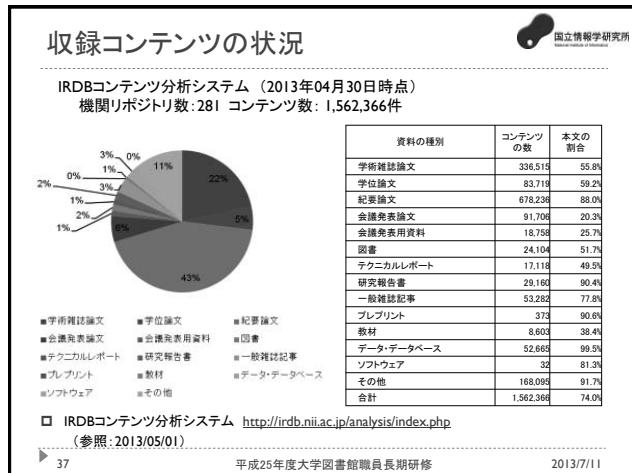
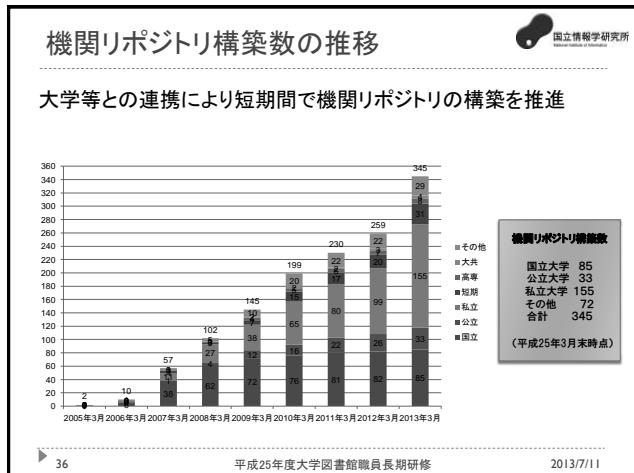
平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

## 学術機関リポジトリ構築連携支援事業

▶ CSI委託事業  
▶ 第1期(2005年~2007年)、第2期(2008年~2009年)  
▶ 領域1(機関リポジトリの更なる普及とコンテンツの拡充)  
▶ 領域2(リポジトリ相互の連携による新たなサービスの構築)  
▶ 第3期(2010年~2012年)  
▶ 領域1(コンテンツ構築支援)  
▶ 領域2(先導的プロジェクト支援)  
▶ 領域3(学術情報流通コミュニティ活動支援)

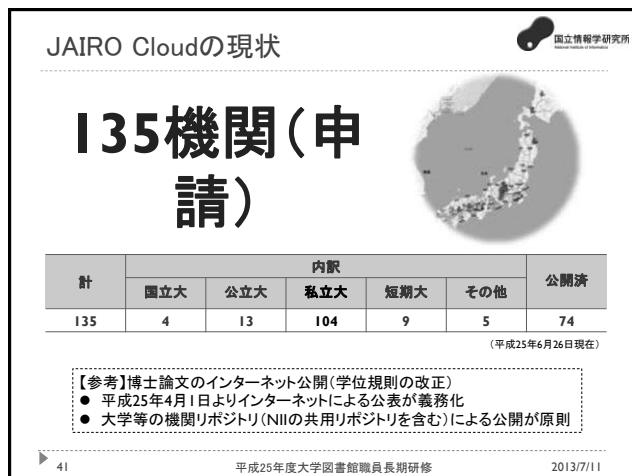
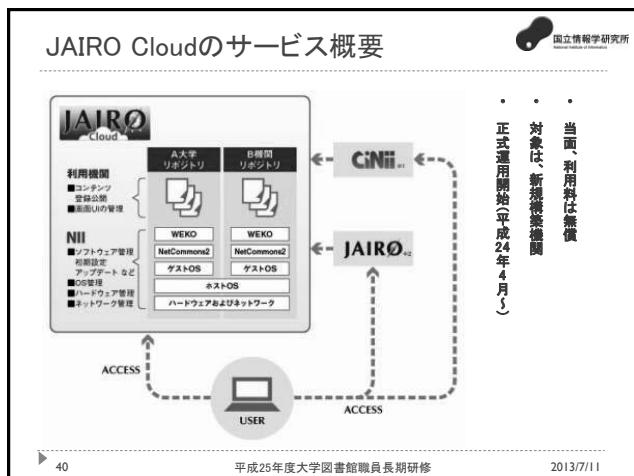
▶ NIIが行っている機関リポジトリ関係のサービス  
▶ メタデータフォーマット(junii2)の作成と維持  
▶ 学術機関リポジトリポータル(JAIRo)  
▶ 機関リポジトリ構築ソフトウェアの開発と維持(WEKO)

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11



- ### 今後の機関リポジトリの推進
- CSI委託事業は、平成24年度で終了
  - 今後は、「連携・協力推進会議」の下の新委員会を中心  
に推進
  - 想定される推進事業の柱
    - コミュニティの育成
    - 技術・システム基盤の整備
    - コンテンツ拡充
    - 支援活動
    - 上位レイヤサービスの開発
  - NIIの重点課題
    - JAIRO Cloudの強化
- 38 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

- ### JAIRO Cloud(共用リポジトリ)
- 事業内容
    - 機関リポジトリの自力構築が困難な機関向けに、リポジトリのシステム環境を提供し、運用を支援する。
    - NIIが開発した機関リポジトリソフトウェア「WEKO(ウェコ)」をベースに共用リポジトリのシステム環境を構築
  - サービス対象
    - 新たに機関リポジトリを構築する機関
    - 地域共同リポジトリを構築する機関
  - 事業の目標
    - 平成27年度までに200機関の新規構築
    - 既構築機関(約200機関)と併せて400機関となり、博士後期課程を持つ大学はほぼ網羅
- 
- 39 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11



JAIRO Cloudによる構築例

神戸松蔭女子学院大学 <https://shoin.repo.nii.ac.jp/>

聖心女子大学 <https://u-sacred-heart.repo.nii.ac.jp/>

名寄私立大学 <https://nayoro.repo.nii.ac.jp/>

清泉女学院 <https://seisen-jc.repo.nii.ac.jp/>

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

42

JAIRO Cloudの今後の計画

システム基盤の強化  
ソフトウェアの機能拡張  
対象機関の範囲拡大  
有料化の検討

(経費の負担)  
第9条 利用者は、利用に係る経費の一部を負担するものとする。  
2 利用者が負担すべき経費の額及び負担の方法は、別に定める。

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

43

SPARC Japan

SPARC (Scholarly Publishing and Academic Resources Coalition) Japan  
・国内学協会等の電子的出版活動の促進と日本の学術雑誌の国際的評価の確立  
・一流の国際的学術雑誌を育て、日本からの研究成果の海外発信力を強化  
・国際的視点からの学術情報流通の改善

	第1期 平成15～17年度	第2期 平成18～20年度	第3期 平成22～24年度
事業参画誌の募集	パートナー誌:45誌		
電子化支援	全てのパートナー誌が英文EJ化／うち13誌はEJ-only		
セミナー開催	H17(10回開催)より実施	H18～20(22回開催)	H21～H23(30回開催)
合同プロモーション			H19より国内外での出展活動
ニュースレター	平成21年2月創刊		現在まで16号刊行

■電子化支援：英文パートナー誌45誌の電子ジャーナル化完了  
■セミナー開催：国際会議（The SPARC Digital Repositories Meeting 2010）共催  
■国立大学図書館等との共同のセミナー・シンポジウムの開催  
■合同プロモーション：分野別パートナー誌合同での国際学会への出展

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

44

SPARC Japan第4期(H25～27年度)の事業計画

1 国際的なOAイニシアチブとの協調  
SPARC、SPARC Europe、SCOAP3、arXiv.org、ORCID、COAR等

2 オープンアクセスの課題への対応と体制整備  
大学図書館と連携して、IRやOA対応について検討、啓発活動の継続

3 オープンアクセスに関する基礎的情報の把握  
OA誌やIRの利用実態や投稿実態について調査

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

45

SPARC Japanプロジェクト

- SPARC Japanセミナー
- 海外動向調査
- SCOAP3支援
- arXiv.org支援
- オープンアクセス支援のパイロットプロジェクトの検討
- 日本の学術誌の基礎的情報の把握
- SPARC Japan年報の発行

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

46

APCによるOA誌への対応

オープンアクセス誌の急速な普及に伴い、APC(Article Processing Charge)の機関負担モデルを採用する出版社が徐々に増えている。  
一方、日本の大学等においては、機関内のAPC支払い状況も十分に把握できていない。世界的にAPC機関負担モデルが加速すれば、日本が大幅に立ち遅れてしまうことも懸念される。  
以上を勘案し、具体的な提案が可能な出版社を対象にしたパイロットプロジェクトを実施することで、APCの機関負担がもたらすオープンアクセス化推進への効果等を測定し、APC機関負担モデルの妥当性等を検証・評価する。

平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11

47

機関負担モデル検討(H25年度の取り組み)



国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

---

- ▶ 実態調査
  - ▶ 海外の動向調査
  - ▶ 国内のオープンアクセス投稿実態調査
  - ▶ APC機関負担モデルの動向調査
- ▶ パイロットプロジェクトの実行可能性の検討
  - ▶ BioMed Central(BMC)の提案の検討
  - ▶ BMC以外の提案の検討
  - ▶ パイロットプロジェクト実施の検討
- ▶ 大学図書館との連携
  - ▶ 国立大学図書館協会・学術情報委員会
  - ▶ JUSTICE(大学図書館コンソーシアム連合)

教育研修事業		
区分	対象	目的
講習会	本研究所以の目録所 在情報サービス、 JAIRO Cloud(共用 リポジトリサービス) の業務担当者	NACSIS-CAT JAIRO Cloud の内 容や操作・運用方 法等の修得
専門 研修	大学等における学 術研究活動支援に 携わる者	学術コンテンツ、 情報伝信等の最 新動向の認知、必 要となる専門知識 や技術の修得
総合 研修	大学等において、図 書館、電子計算機 およびネットワーク 等の業務に専任的 に従事する者	高度の学術情報シ ステム環境に対応 しうる知識等の修 得(実務研修を含む)



国立情報研究所



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会



日本学術情報サービス協会



日本図書館情報学会

## 実務研修

どんな条件で受講できるの?

**方針** 大学、図書館等において情報収集・情報伝達センターに実績のある者を対象とする

**テーマ** 学術情報収集・伝達に関する課題の交換を目的とし、実践的に問題に直面した人材の育成を目標とする

**期間** 対象者による(年内)

**費用** 研修料は原則として支拂いなし

記載の情報は参考用であり、講義担当者、会場によって異なる場合につき、該当する場合は、講義担当者と同様の研修料とのうえ算定下さい。

もっと詳しく知りたいときは?

- ◎担当(平成25年度)からお問い合わせください
- ◎まずは情報収集へお越しください

NII実務研修会



未君  
山の  
一等  
チ  
と  
か  
可  
能  
な  
レ  
ン  
ジ  
が

上記は参考用です。実際の会場や内容は異なります。参考用です。実際の会場や内容は異なります。

合同会社申込書

国立情報学研究所 学術情報収集・伝達課 情報収集セミナー担当  
nii-jr@nii.ac.jp 03-4212-2177 [www.nii.ac.jp/nri/](http://www.nii.ac.jp/nri/)



国際情報学研究室  
National Institute of Informatics

国立情報学研究所  
平成25年度実務研修事業

# 実務研修生募集



NII実務研修会  
NII実務研修会  
NII実務研修会  
NII実務研修会  
NII実務研修会

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11


 国立情報学研究所  
 National Institute of Informatics

# 実務研修(実績)

## ●平成24年度実績

大阪大学	電子情報資源を含む学術情報発見システム構築に向けた調査・検討(学術コンテンツ課、JUSTICE)
琉球大学	IRDBコンテンツ分析システムを用いデータ分析を通じた機関リポジトリの現状把握(学術コンテンツ課)

## ●平成23年度実績

鳴門教育大学	オンライン共同分担目録方式の最適化に向けた大学図書館の観点からの調査・検討(学術コンテンツ課)
一橋大学	電子ジャーナルバックファイル等の国レベルでの整備に向けた調査・企画(JUSTICE)
大阪大学	電子資料契約実務必携の作成、出版者からの提案書の標準化(JUSTICE)
明治大学	電子リソース利用統計のコンソーシアムによる活用に向けた調査・検討(JUSTICE)

## ●平成22年度実績

静岡大学	NIIコンテンツサービスと機関リポジトリの連携(学術コンテンツ課)
東京大学	学術情報ネットワーク(SINET4)の運用・管理(学術基盤課)

※( )内は受入先

51

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11

学術情報システム総合ワークショップ	
	国立情報学研究所 National Institute of Informatics
▶ 目的	▶ 大学図書館とNIIが連携・協力して解決しなければならない学術情報流通にかかる課題解決のために、学術情報システムに関する総合力を養成
▶ 研修内容	<p>▶ 本年度のテーマ「デジタル化された資料の活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① デジタル化された資料の状況調査と組織化</li> <li>② デジタル化資料のデータベース(NDL、MathJax等)と連携した検索環境整備</li> <li>③ その他(全体テーマにかかる個別課題を自ら設定する)</li> </ul>
▶ 方式	▶ 総合研修十自館での作業
(平成25年度スケジュール)	
開催会場等	開催日時
国立情報学研究所(第1回、講義)	25.7.12
各自の機関	25.7.16～9.11
国立情報学研究所(第2回、中間報告会)	25.9.12～9.13
各自の機関	25.9.17～12.9
国立情報学研究所(第3回、報告会)	25.12.10

# 電子リソースの管理とアクセス支援 ～ERDBプロジェクト～

# 電子ジャーナルをめぐる2つの課題

---



国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

①恒常的な価格上昇  
→ JUSTICEの誕生

②管理とアクセス提供  
→ ERDBの誕生



国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

# 電子リソースへの取組み

- ▶ 「目録情報の基準」の整備(平成8年)
  - ▶ 電子ジャーナルの書誌レコードの作成や所蔵レコードの記述のための基準整備
- ▶ 電子情報資源管理システム(ERMS)実証実験
  - ▶ 平成19年度～20年度に実証実験を実施
- ▶ 図書館連携作業部会ワーキンググループでの取り組み
  - ▶ 平成21年度～23年度にかけて、電子情報資源管理のための検討を継続
- ▶ アンケート調査
  - ▶ 平成23年3月に「NACSIS-CAT/ILL参加館状況調査アンケート」を実施
  - ▶ 「電子情報資源の管理・提供方法について」も調査
- ▶ ヒアリング調査
  - ▶ 平成23年度に複数大学図書館に対してヒアリング調査を実施

▶

55

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11



国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

## 問題の本質



A Venn diagram consisting of two overlapping circles. The left circle is labeled "図書館管理タイトル (アクセス情報を提供しているタイトル)" and the right circle is labeled "契約タイトル (大学がアクセス権を有するタイトル)". Below the circles is a horizontal double-headed arrow with the text "乖離が拡大" (Discrepancy increases) written above it. A downward-pointing arrow from this text leads to the text "利用者のアクセスに障害" (Obstruction to user access). Another downward-pointing arrow from this text leads to the final text "図書館の信頼性の低下！" (Decline in library credibility!).

56

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11

The diagram illustrates the relationship between existing resources and various academic information systems:

- 既存資料の電子化** (Top Left)
- 多様な情報資源への一元的アクセスのための統合インデックス** (Top Middle)
- さまざまな情報への一元的アクセスを実現するシステム** (Top Right)
- 新たな学術情報システムを担う人材の育成** (Right Side)
- 電子リソース管理データベースの構築** (Bottom Left)
- 電子出版物の総合目録データベースの整備** (Bottom Middle)
- 大学図書館とNIIによる連携・協力の枠組を活用して課題に取り組む** (Bottom Right)
- オープンアクセスの推進** (Left Side)

A large oval encloses the following components:

- 既存資料の電子化**
- 多様な情報資源への一元的アクセスのための統合インデックス**
- 電子リソース管理データベースの構築**
- 電子出版物の総合目録データベースの整備**
- 大学図書館とNIIによる連携・協力の枠組を活用して課題に取り組む**
- オープンアクセスの推進**

A callout box labeled "電子リソース管理データベース ERDB構築プロジェクト実地へ" points to the "電子出版物の総合目録データベースの整備" component.

# ERDBプロトタイプ構築プロジェクト



国立情報学研究所  
National Institute of Informatics

## ▶ 概要

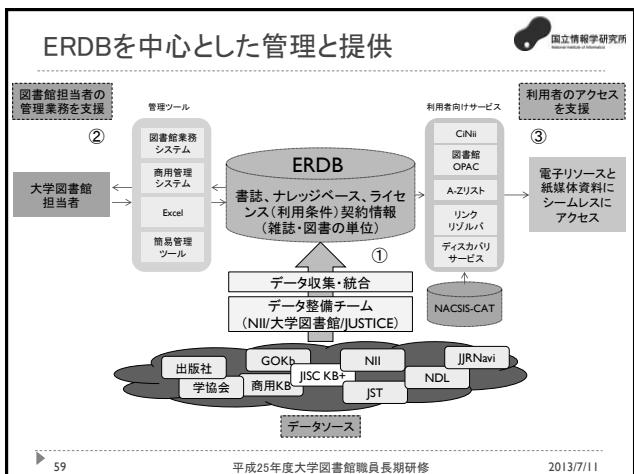
- ▶ 大学図書館とNIIの連携のもとに、電子リソースに関するデータ共有のための基盤構築を行なうプロジェクト(平成24(2012)年度開始)

## ▶ 目的

- ▶ 電子リソースに関するデータ共有のための基盤を構築することで、紙媒体を中心とした従来の総合目録データベースと併せて、電子媒体および紙媒体の学術情報への迅速かつ的確なナビゲートを実現し、利用者の学術情報へのアクセシビリティを向上させる

## ▶ 実施体制

- ▶ 国立情報学研究所、JUSTICE事務局、参加館(12館、次のとおり)
  - 東北大、東京大、電気通信大、一橋大、横浜国大、京都大、九大、大阪市立大、学習院大、慶應義塾、明治大、國立情報学研究所



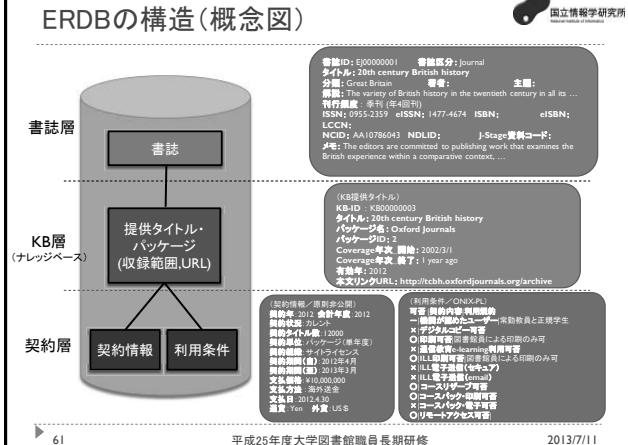
ERDBによる業務とアクセスの支援(シナリオ) 国立情報学研究所 National Institute of Informatics

- ① ERDBの構築とデータ共有
    - ▶ 国内外の電子リソース（電子ジャーナル、電子ブック等）の書誌・アクセス可能範囲・パッケージ・ライセンス（利用条件）・利用統計等のデータを集約
  - ② 大学図書館の業務支援
    - ▶ ERDBのデータを利用した効率的な契約情報管理、ライセンス管理、利用統計管理
  - ③ 利用者のアクセス支援
    - ▶ 図書館OPAC、A-Zリスト、リンクリゾルバ、ディスカバリ、CiNii等でデータを活用し、必要な電子リソースを迅速かつ的確に発見・アクセスすることができる環境を整備
    - ▶ 既存のNACSIS-CAT等のデータとの横断検索を提供し、紙と電子の情報をシームレスに利用できる環境を整備

60

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11



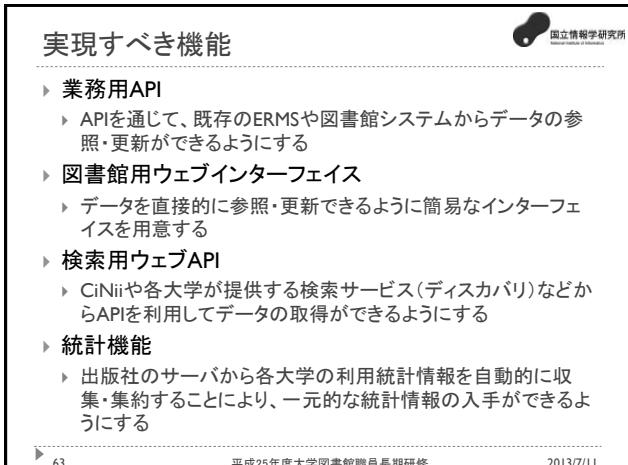
## 共有すべきデータ

- ▶ 国内外のナレッジベース
    - ▶ 国内でサービス提供している電子リソースのデータを収集し共有することで日本のナレッジベースを構築
    - ▶ 海外の電子リソースのデータ共有については、既存のナレッジベースの活用や海外プロジェクトとの連携により構築
    - ▶ 構築したナレッジベースは図書館業務で活用するだけでなく、なるべくオープンに公開し、国際的な学術情報流通に寄与
  - ▶ ライセンス情報
    - ▶ JUSTICEと出版社との交渉により合意したライセンス情報(利用条件)を共有
  - ▶ 各大学の情報
    - ▶ 各大学における契約状況(最低限、契約の有無)の情報を収集・共有
    - ▶ ILLでの利用の可否などの情報も含む

62

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11



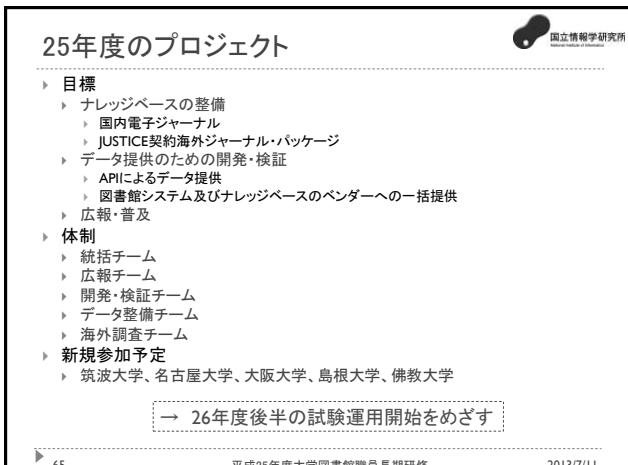
## ERDBの効果

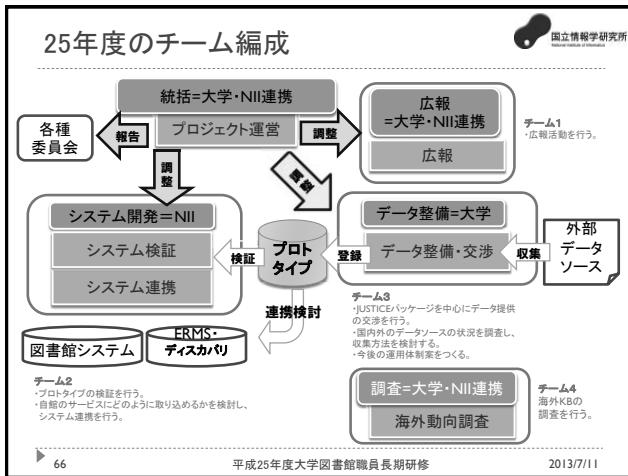
スティクホルダー	課題	ERDBの効果
研究者・利用者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属機関で契約している（利用できる）電子リソースが把握できない</li> <li>・電子と紙の資料を合わせて検索できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約タイトルに的確にアクセスできる</li> <li>・電子と紙の資料を一元的に検索できる</li> </ul>
大学図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約タイトルの正確な把握が困難（タイトル数の増加や頻繁なTRANSFER等により）</li> <li>・管理や利用提供サービスのためのデータ整備業務にコスト（人手）がかかる</li> <li>・電子ジャーナルの契約タイトル見直しに不可欠な利用統計の把握が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約状況を管理することが容易となりコスト削減が実現</li> <li>・利用者ニーズに的確なナビゲーションが可能となる</li> <li>・利用統計に基づく契約タイトルの見直し等の作業が効率化する</li> </ul>
大学コンソーシアム連合（JUSTICE）	・参加館の契約・利用の実態が把握が困難（契約状況調査の負荷大）	・参加館の契約状況や利用状況を容易に集約することが可能になり、出版社との交渉力強化につながる
大学経営者	・電子ジャーナルの価格上昇による財政圧迫	・契約と利用の実態に基づき、適切な投資が可能となる
国立情報学研究所（NII）	・電子リソースの契約情報を提供できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CiNii-Booksを通じて、電子と紙の契約・所蔵情報を一元的に提供できる</li> <li>・CiNiiゴリゴリクリバ機能を付加することも可能</li> </ul>

64

平成25年度大学図書館職員長期研修

2013/7/11





**ERDBプロジェクトに関する情報公開**

<http://www.nii.ac.jp/content/erdb/>

次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業  
Next Generation Academic Information Infrastructure

English | 関連

HOME | ニュース | 事業について | イベント情報 | ドキュメント | お問い合わせ

ERDB | ERDB

概要  
目的  
概要  
大学図書館で  
共有すべきデータ  
実現する機能  
運営体制  
現在の取り組み状況  
今後の予定  
期待される効果  
資料

ERDBプロジェクトは、大学図書館の運営のもと、電子リソース(電子ジャーナル、電子データ等)に関するデータ共有のための基盤構築を行なうプロジェクトである。

▲ページTOPへ戻る

目的  
大学図書館の運営により、電子リソースに関するデータを他の図書館からの需要を満足することで、結果的に各館とともに  
より多くの利用者データベースと併せて、電子資源および出版物の利用権限の迅速化や情報サービスを実現し、利用者の学術情報のアクセスibilityを向上させることを目的とする。

▲ページTOPへ戻る

大学図書館間で共有すべきデータ

67 平成25年度大学図書館職員長期研修 2013/7/11